

## 岐阜同朋

あわびの  
念仏

- 生きるって どういうこと(青木 平七郎)
- 流刑の地「居多ヶ浜」を訪ねて ●My Book
- 今を見る 今を問う
- 美濃門徒の昔話 あわびの念仏

102  
2010.07



羽島市正木町上大浦・橘之御旧跡(河田家)に伝わるあわびの念仏

美濃門徒の昔話

あわびの  
念仏

聖人は河田家に滞在中「南無阿弥陀仏をとなえれば、誰でも救われる」という阿弥陀仏への信仰を説きました。信心深い彦左衛門は、聖人のお話を感銘を受けました。お茶菓子に庭先の九年母(くねんぼ)というみかんの実を出しました。聖人はたいそう喜んで食べましたが、九年母の種が糸切れました。聖人はつかった種を握られると、「私のことと仏が言われることと同じなら、この種はすぐにも芽が出るでしょう。」と言つて、庭先に投げられました。するとその種はみるとうちに芽を出し、河田家の人々は驚きのあまり思わず手をあわせました。

不思議なことが続き、二日間はまたたくうちに過ぎ、いよいよ三日目の旅立ちの朝、河田家の人々は、聖人と別れることが寂しくてたまらなくなり、思いあまつて女中が言いました。「御聖人様、もう一晩お泊まり下さい。おなごりおしくてたまりません。」

その後、鏡や御木像は寺に預かってほしいということで、今は名古屋にある聖徳寺に鏡が、圓養寺(羽島市正木町坂丸)に御木像が納められました。

聖人の糸切り歯や六字の名号が書かれたあわびの貝は、今でも家宝として河田家に伝えられています。

に自分の姿を映されましたが。すると、また不思議なことに、鏡に聖人の旅姿がくっきりと映し出され、写真のように焼けました。聖人はあわびを「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」といつて食べられました。

用意しました。遠い伊勢国から特大のあわびを取り寄せました。聖人は

あわびを「南無阿弥陀仏」と

いって食へられました。

すると、そのあわびの貝殻に、「南無阿弥陀仏」という文字と、その下には蓮の花が浮かび上がってきたのです。「これは何ということだ。」と、彦左衛門は驚いて思わずこのあわびを拝みました。

その後も消えることはありませんでした。またある時泥棒が入りこの鏡を盗もうと、鏡を持って堀までたどたん泥棒は動けなくなり、ついに鏡を放り出して逃げ出してしまったという言い伝えもあります。この時、形見として聖人は自らが彫られた御木像も置いていかれました。

その後、鏡や御木像は寺に預かってほしいということで、今は名古屋にある聖徳寺に鏡が、圓養寺(羽島市正木町坂丸)に御木像が納められました。

聖人の糸切り歯や六字の名号が書かれたあわびの貝は、今でも家宝として河田家に伝えられています。

木曽川の堤防に沿つて尾濃大橋の下をくぐると、河田家の門前に立つ親鸞聖人の銅像がみえます。これは、聖人の旧跡にちなんで昭和46年に建てられたものです。在家唯一の聖地であるので、「橘之御旧跡」として、多くの人々に親しまれています。

嘉禎元年(1235)、念佛の布教に関東を回っていた親鸞聖人は、関東から京都に帰る途中に、大浦(現在の羽島市正木町上大浦)にも立ち寄つて布教しました。その時、河田彦左衛門の屋敷を訪ね河田家に二泊三日の逗留をしたと言われます。この時の信仰にまつわる不思議な話がいくつか伝えられています。



親鸞聖人の糸切り歯を納めた宝塔



驚きのあまり思わず手をあわせました。夜になつて、彦

左衛門は聖人の糸切り歯をあわせました。聖人は「私のことと仏が言われることと同じなら、この種はすぐにも芽が出るでしょう。」と言つて、庭先に投げられました。するとその種はみるとうちに芽を出し、河田家の人々は驚きのあまり思わず手をあわせました。夜になつて、彦

六字の名号と蓮の花が浮かび上がる  
あわびの貝殻(表紙参照)

河田家御夫妻と圓養寺住職

【参考文献】「ふるさと正木」ふるさと正木編集委員会  
河田家御夫妻と圓養寺住職



## あおき へいひちろう 青木 平七郎氏 プロフィール

1935年(昭和10年)10月30日 74歳

岐阜市柳津町下佐波在住

岐阜市柳津町下庄波往住  
岐阜教区第11組門徒会会員

岐阜教区第11組  
善了夫 善任

善了寺 責任役員  
(性)三十六取締役会員

(株)アオキ取締役会長

### 岐阜山県保護区岐阜

柳津町商工会副会長

10. The following table shows the number of hours worked by each employee.

卷之三

私は会社を經營していく上でこのようなことを大切にしているのですが、その根柢には過去

アノリガのサブアーティク・ローンは  
端を発した世界同時不況は、派  
遣社員など雇用弱者が大幅に  
切り捨てられ、多くの人々は「生  
きる」ことにとても大変な時代  
である事を思い、生きるための前  
向きな志向を遠ざけているよう  
です。日本人の多くは、将来に

貢献に努めることです。また地域・社会があつて初めて経営が成り立つことを忘れず、取引先、社員に誠実に向かい合い、感謝し、自分が儲けることを考えるのではなく、地域・社会の良い商品、満足して貰える商品を提供することです。

いかなければならぬことを教えてくれる仏法を聞く者としてお寺と共に門徒も一緒になつてお寺を聴聞の場としていきたいと思うのです。

しかしながら現実の人々の生活に目を移す時、経済的な格差がひどくなり、ワーキングプア、ニート、ネットカフエ難民などの社会現象を秀巒（）て、ます。また

ているのではないかと思います。  
今、それぞれの寺と門信徒が  
一体となり、現在を生きる私た  
ちが抱えている悩み、苦しみを  
率直にとらえ、その悩み、苦しみ  
を仏法に尋ね、共に乗り越えて  
いこうという意思と覚悟をもた  
なければならぬのではないかと  
感じております。

シリーズでお送りしております  
「生きるって どういうこと」。  
\*\*\*\*\*  
今回は、第11組門徒会長の青木平七郎さんに、今まで歩んでこられた人生、お仕事の中で思うこと。あるいはお寺の仕事に携つてから感じたことなどを語つていただきました。

いたしました。9月30日は、6年余りの歳月をかけ無事御修復を終えた世界最大規模の木造建築である御影堂に、宗祖親鸞聖人の御真影を戻す法要「還座式」が厳粛に執りおこなわれました。御真影の前に座り手を合わせ私たちは共々に正信偈・和讃を唱和し、仏法聴聞の縁にあずかったものと感激を覚え、いよいよ仏法聴聞の生活を深めていくことを誓つた一人でした。

住職からのお誘いで手次の寺の責任役員になり、第11組の門徒会長となりました。不思議なご縁だと思いましたが、お引き受けした以上は使命感、責任感を持つて携わつていかなければいけないと決意しました。門徒会長をお引き受けしたご縁により「親鸞聖人の教え」とは、「南無阿弥陀仏」とは一体何か?その

独学ではあります、親鸞聖人に関する本を仕事の合間に読みました。特に中国出張の際、搭乗した飛行機内の時間はとても貴重なものとなりました。また同時に第11組で企画策定した「推進員養成講座」に率先して参加することも決めました。

前期教習の5回は受講させて頂いたのですが、後期教習が諸事情により今回は受講できませんでした。残念でしたが今後に機会を設けて頂き、事情により後期教習を受講できなかつた方々と共に上山し後期教習を受けたいと願つております。

推進員とは「自らが、生活の中にお念仏の教えの大切さに気づき、住職とともに同朋の会を推進する扱い手となる人のこと」とテキストには書かれているのですが、第11組の「推進員養成講座」の「家庭に取り戻そう親鸞の教え」を願いとし、「ののさま

講師のお話しを聞いていく中で  
私が感じたことは、過去、現在、  
未来を見つめて、色々な支えによ  
つて今ここに私がある、現在があ  
るという尊さ、有り難さに感謝  
することではないかと思います。  
私は戦後の食べることに精一  
杯という貧しい時代の中で、岐  
阜工業高校の紡織科を卒業し  
て尾張町の機屋に奉公にでまし  
た。まず働くこと、収入を得る  
ことが大切だったのです。

私の先代も元々機屋だったの  
ですが、戦時中は軍需工場にな  
り、戦後は銅料工場をしていま  
した。その工場を元の機屋に戻  
し毛織物を始めました。そうい  
う厳しい苦しい時代を過ごして  
きたからこそ現在の有り難さを  
喜ぶことができ、現在があるこ  
とは過去の厳しい苦しい時代を  
支えてきた方々のご苦労があつ  
てこそだと感謝する生活の中で、  
現在は会長職として会社を経  
営させて頂いています。

シリーズでお送りしております  
「生きるってどういうこと」。  
今回は、第11組門徒会長の青木  
平七郎さん(あおきへいしちろう)に、今まで歩んでこ  
られた人生、お仕事の中で思う  
こと。あるいはお寺の仕事に携  
わってから感じたことなどを語  
つていただきました。

いただきました。9月30日は、6年余りの歳月をかけ無事御修復を終えた世界最大規模の木造建築である御影堂に、宗祖親鸞聖人の御真影ごしんねいを戻す法要「還座式」げんざしきが厳粛げんしゆくに執りおこなわれました。御真影の前に座り手を合わせ私たちとは共々に正信偈・和讃を

ような問いを持つようになり、  
独学ではあります、親鸞聖人  
に関する本を仕事の合間に読み  
ました。特に中国出張の際、搭  
乗した飛行機内の時間はとても  
貴重なものとなりました。また、  
同時期に第11組で企画策定し  
た「推進員養成講座」に率先し

講師のお話しを聞いていく中で  
私が感じたことは、過去、現在、  
未来を見つめて、色々な支えによ  
つて今ここに私がある、現在があ  
るという尊さ、あり難さに感謝  
することではないかと思います。  
私は戦後の食べることに精一  
杯という貧しい時代の中で、岐



聖人越後御旧跡を訪ねて」の研修旅行に参加させていただきました。東海・北陸地方にたいへんな寒波が襲い、ことに新潟は4月も半ばというのに雪が舞うほど荒れた天候となりました。私にとって初めての新潟は「涙が出るほど寒く辛い」ものでした。親鸞聖人が流罪にあわされたのもちよどこの時期ということで、宗祖のご苦労を偲ばせていただくにはまたないご縁となりました。とりわけ最初に訪れた親鸞聖人御上陸の地「居多ヶ浜」は強く印象に残りました。鉛色の空の下、吹きすさぶ風を受け、浜の波打ち際まで降り立ち、荒波の打ち上げる音を聞きながら、小舟で二人のお供を連れこの地に上陸なさった宗祖のお姿を目に浮かべさせていただきました。

親鸞聖人は今から803年前の1207年（承元元年）、旧仏教勢力の圧力を伴う朝廷からの念仏の弾圧によってこの越後新潟の地に流罪となられます。世にいう「承元の法難」です。法然門下の安樂、住蓮を含む4名が斬首、法然・親鸞を含む8名が流罪にあわれます。時に親鸞聖人35歳、比叡山を下り、吉水の法然上人の門をたたかれて6年目のことでした。後に、「承元の法難」で安樂・住蓮ら4名が死罪に至り、「上覚をばざことなり」、正像末和讃の冒頭の和讃です。この和讃には「無上覺をばざことなり」とあります。康元2年（1257年）2月9日は「承元の法難」で安樂・住蓮ら4名が死罪になつた日（1207年2月9日）からちょうど50年目のその日に制作されたと制作日時が記されています。康元2年（1257年）2月9日は「承元の法難」で安樂・住蓮ら4名が死罪になつた日（1207年2月9日）からちょうど50年間、片時もこの法難をお忘れにならなかつたということを意味します。

親鸞聖人は、当時の既成仏教教団がまさに衆生を救済する本分を忘れ、親鸞聖人は、当時の既成仏教教団が

## 「居多ヶ浜」を訪ねて

去る4月14・15日、教区主催の「親鸞聖人越後御旧跡を訪ねて」の研修旅行に参加させていただきました。東海・北陸地方にたいへんな寒波が襲い、ことに新潟は4月も半ばというのに雪が舞うほど荒れた天候となりました。私にとって初めての新潟は「涙が出るほど寒く辛い」ものでした。親鸞聖人が流罪にあわされたのもちよどこの時期ということで、宗祖のご苦労を偲ばせていただくにはまたないご縁となりました。とりわけ最初に訪れた親鸞聖人御上陸の地「居多ヶ浜」は強く印象に残りました。鉛色の空の下、吹きすさぶ風を受け、浜の波打ち際まで降り立ち、荒波の打ち上げる音を聞きながら、小舟で二人のお供を連れこの地に上陸なさった宗祖のお姿を目に浮かべさせていただきました。

親鸞聖人は今から803年前の1207年（承元元年）、旧仏教勢力の圧力を伴う朝廷からの念仏の弾圧によってこの越後新潟の地に流罪となられます。世にいう「承元の法難」です。法然門下の安樂、住蓮を含む4名が斬首、法然・親鸞を含む8名が流罪にあわれます。時に親鸞聖人35歳、比叡山を下り、吉水の法然上人の門をたたかれて6年目のことでした。後に、「承元の法難」で安樂・住蓮ら4名が死罪に至り、「上覚をばざことなり」とあります。康元2年（1257年）2月9日は「承元の法難」で安樂・住蓮ら4名が死罪になつた日（1207年2月9日）からちょうど50年目のその日に制作されたと制作日時が記されています。康元2年（1257年）2月9日は「承元の法難」で安樂・住蓮ら4名が死罪になつた日（1207年2月9日）からちょうど50年間、片時もこの法難をお忘れにならなかつたといふことを意味します。

「主上臣下、法に背き義に違ひ、いかり怨を結ぶ」（教行信証）と為政者の無法、非道を厳しく指弾なさつておられます。果然上人は土佐へ、親鸞聖人は越後に遠流となり、お一人は生涯を通して二度とお会いになることはありませんでした。念佛團を破壊され、ともに教えをいただいた仲間を殺害され、生涯の師法然上人と今生の別れをせねばならなかつた宗祖のお心はいかばかりであつたでしょうか。

しかしながら、親鸞聖人は、「大師聖人（源空）もし流刑に処せられたまわはずは、われまた配所に赴かんや、もしわれ配所におもむかずは、何によりてか辺鄙の群類を化せん、これ猶師教の恩致なり。」（御伝鈔）ともおつしやつておいでです。どんな逆境をも耐え忍ぶのではなく、このご縁を念仏興隆の勝縁として受け止め、力強く教化に励まれた宗祖のお心が偲ばれます。なりふりかまわず、その日の生活に精一杯の越後の「あなかの人々」とともに田畠を耕しながら、ご本願を喜び合い、厳しい暮らしの中でお念仏のみ教えをいただかれていました。

今回の研修では、この親鸞聖人御上陸の地に建つ「居多ヶ浜記念堂」を訪ね、ご堂主のお話を聞くご縁をいただきました。今回もおつしやつておいでです。どんだけかれていたのです。

今回の研修では、この親鸞聖人御上陸の地に建つ「居多ヶ浜記念堂」を訪ね、ご堂主のお話を聞くご縁をいただきました。

**My Book**  
Story & Review

手塚治虫漫画全集 88巻  
メタモルフォーゼ



講談社 591円+税  
(現在入手困難)



メタモルフォーゼ  
一ゼとはドイツ語で変容、変身、転生という意味で、タイトルどおり「変身」をテーマにした短編が7話収録されています。今回はその中のひとつを紹介いたします。

今日はその中のひとつを紹介いたします。正義の味方を紹介いたします。

メタモルフォーゼのコミックティーがありました。そこには大きな（西の）ボス鳥がいました。西のボス鳥がやつていることは、攻撃してくる東のボス鳥からみんなを守ること。その代わりに餌を徴収しています。正義の味方ですが、恐れられています。

### 聖なる広場の物語

初出は1977年、ちょうど東西冷戦の真っ最中で、またチエルノブリ原発事故（1986年）の9年も前に発表された作品です。

「西の枝」という鳥たち



▶西のボス鳥

東のボス鳥がパワーアップすれば、西のボス鳥も…。

そのたびに体は巨大化、つまりも牙も鋭くなります。その体を維持するため、卵を要求はじめ、さらにはヒナまでも…。我慢できなくなつた小さい鳥は自分もパワーアップしようと思い、聖なる広場にボロボロになりました。そこで見たものは…。聖なる広場とは廃棄された工場で、砂場とは工場から出た公害物質で汚染された大地でした。ボス鳥たちは汚染物質で汚染され

るところを決心。

やがて、西のボス鳥が鳥たちを食べにきました。みんな戦いました。そして多

くの鳥が死にました。

そこに怒り狂つた東のボス鳥が!! 2羽はたちまち殺し合い、やがて毒が回り、鳥とは思えない姿で2羽とも死にましたとさ。

…その後の小さい鳥たちの世界はどうなつたかわかりませんが、現実社会を見れば…。

が、崇められるうちに当初

しまうのでしょうか?

しかしながら、お互い負けないようにパワーアップを繰り返す。人間ってそんなものなの? (評者: 松前)

この物語は「いのち」と「ころ」の教科書(イースト・プレス刊)という本にも収められており、こちらは比較的入手し易く、またまったく違つた視点から書評されています。

5

4

今を  
見る  
今を  
見る

卷之三

卷之三

**2**

核家族化、少子高齢化は凄まじい勢いで日本社会を変革している。私たち宗門にも待ったなしで対策が迫られている。

核家族化、少子高齢化は凄まじい勢いで日本社会を変革している。私たち宗門にも待ったなしで対策が迫られている。

特に、真宗（仏教）を学ぶ場として、次世代を担う人を育てる場として最も大切な宗門系の大学は、対応が後手後手に回り、定員割れ、募集停止等、運営的にも危機的状況に追い込まれつつある。愛知新城大谷大学・同短期大學部では今年度より学生募集を停止した。

同朋大学（同朋学園）においても、2007年度入試において志

願者・入学者数共に激減し、その後も歯止めがかかるない状態。特に仏教学科の志願者が少なく経営的には苦しいと思われる。名古屋音大（同朋学園）は7年連続で定員割れ。大谷大学も偏差値が下がり続け学生から敬遠されているのが現状である。寺族の子弟でさえあえて宗門系以外の大学を希望する人が増え続いている。

先生は生徒の無気力を嘆いているが、学生は学生で真剣に向き合ってくれない先生と希望が持てない未来設計を嘆き、進むべき道がはつきり見いだせず悩んで

育つていかない。あえて恐れず諫言すれば経営に対する意識改革しか存続の道はないのではないか。今は、魅力ある特色を出すことの他に運営ということも重要な課題である。財源は限られているのだから。学生には学んだことを生かせる場が必要だ。就職問題は学生にとって最大の関心事だ。全力を挙げ学生をバツクアツプしなければならないと思う。

開學式典では、「本学は他の学校とは異なり宗教学校なること、殊に仏教の中において淨土真宗の学場であります。即ち我々が信奉する本願他力の定義に基きまして、我々に於て最大事件なる自己の信念の確立の上に、其信仰を他に伝へる、自信教人信の誠を尽くすべき人物を養成するのが本学の特質であります」と真宗の学びの

場として、自己の信念の確立の精神の府として、他大学との違いを鮮明に宣言した。清沢満之は学監（学長）に就任するも翌年には辞任し、その翌年39歳で亡くなった。大学に関わったのはほんのわずかな期間であったが、崇高な理想と情熱は、真宗の教えを学び、伝えようとする数多くのかけがえのない多くの人物を生み育てた。

アサヒビール中興の祖といわれる樋口廣太郎は、住友銀行副頭取に史上最年少で上り詰めるも、当時の磯田一郎頭取の融資に反対したため翌日に左遷させられた。30社ほどある左遷先リストから一番経営が難しいと思われたシェアひとヶタ台のアサヒビールを選んだ。アサヒビールの顧問に就任してから、「アサヒビールの、どこが悪いのか。どうすればいいのかを教えてください」とライバルメーカーに自社の欠点を率直に尋ね歩いた。また、小売りの現場に何度も何度も足を運び、直接自社製品を見て回り「どうして売れないのか」を聞いて回った。そして、シェアを伸ばすため、売れないので無理やり店に押しつけたビルのことや、古いビルから売りたいという店側の事情から新しいビルは店頭に出なくなり、「アサヒは古い」というイメージが定着し在庫の山を築かせたことを知る。そこで、社内の反対を

押し切つておよそ18億円もの大金を使い売れ残っていた古いビルを全て店頭から回収・廃棄したこと。「捨てる」ことが結果的にアサヒ再興につながった。さらには、前例がない「味を変える」ことに挑戦する原動力となつた。

彼は、社員に「前例がないからやらない」のではなく、「前例がない。だからこそやる!」という発想の転換を求めた。発想を変えれば前向きになれる。彼はビルそのものは素人だったが、その意味で、何の先入観もなく「当たり前のことを当たり前にやろう!」「人マネはやめよう!」と呼びかけることが出来た。その発想の転換から完成させたのがアサヒスーパー・パードライだ。

題かを他社（他大学）や現場から率直に学ぶ勇気と、前例がないことに挑戦するための発想の転換が、今、求められている。守るべきものは守り、変革をすべきものは勇気を持つて進めて欲しい。経営に対する意識改革をして欲しい。

宗門も大学問題に真剣に取り組み支援し、人の発掘にも力を入れることを望む。やる気ある人や感性ある人を寺族以外でも積極的に採用し、適材適所に進んで登用する勇気を期待する。

いる。「生きる力」を育み、「共に生きる力」の源泉となる真宗(仏教)の教えを通し、時代がどんなに変わろうと変わらない普遍の価値を見いだせる大切な場が大學だ。利益重視の勝ち組思想を追求する他大学にない魅力を是非發揮して欲しい。

重い肺結核を患い死と向き合いながら清沢満之は、明治32年37歳の若さで本願寺の要請を受諾し「真宗大学」の名で始まつた大谷大学初代学監（学長）に就任した。

編集後記

先日、3D(三次元)映像による劇

場公開が大きく取り上げられた映画、

「お前が『お籠』にかかる前に、何

のような視覚的錯覚にとても驚きま

した。その $\square$ 機能を持った薄型元

近い将来、この「岐阜同朋」も紙で

はなく、デジタル(さうに3D)に媒

体を和し、皆の心の元へお届け  
(西田 繁)